

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.

Japan Patent Office  
Utility Model Laying-Open Gazette

Utility Model Laying-Open No.      3-96870  
Date of Laying-Open:              October 3, 1991  
International Class:                A 63 B 71/14

(1 page in all)

---

Title of the Invention:              Thumb Retainer in a Glove or Mitt

Utility Model Appln. No.            2-4398  
Filing Date:                        January 22, 1990  
Inventor:                            Ryosuke SONODA  
Applicant:                           Sankei Undo-Yohin KK

(transliterated, therefore the  
spelling might be incorrect)

Partial Translation

What is claimed is:

A thumb retainer in a glove or a mitt prepared by fixing the central portion of a thumb contact section to a thumb receiving portion of a ball receiver, fixing base portions of binding strings to the right and left free ends of said thumb contact section respectively and perforatively binding an outer leather member so that said strings intersect with each other.

⑫ 公開実用新案公報(U)

平3-96870

⑤ Int. Cl.<sup>3</sup>

A 63 B 71/14

識別記号

庁内整理番号

F

7017-2C

⑥ 公開

平成3年(1991)10月3日

審査請求 有 請求項の数 3 (全1頁)

⑭ 考案の名称 グラブ及びミットにおける親指保定装置

⑰ 実 願 平2-4398

⑱ 出 願 平2(1990)1月22日

⑲ 考 案 者 國 田 良 介 神奈川県大和市下鶴間3846番地 三恵運動用品株式会社内

⑳ 出 願 人 三恵運動用品株式会社 大阪府大阪市浪速区元町3丁目13番4号

㉑ 代 理 人 弁理士 鈴木 正次

㉒ 実用新案登録請求の範囲

- 1 球受体の親指挿入部へ親指当接片の中央部を固定し、前記親指当接片の左右自由縁に夫々縛着用の紐の基部を固着し、前記夫々の紐は交叉する如く、外革を貫通縛着することを特徴としたグラブ及びミットにおける親指保定装置。
- 2 縛着用の紐は夫々とした請求項1記載のグラブ及びミットにおける親指保定装置。
- 3 親指当接片は、親指包む挿入長さとはほぼ等しくし、少なくとも親指の当接側を包む巾とした請

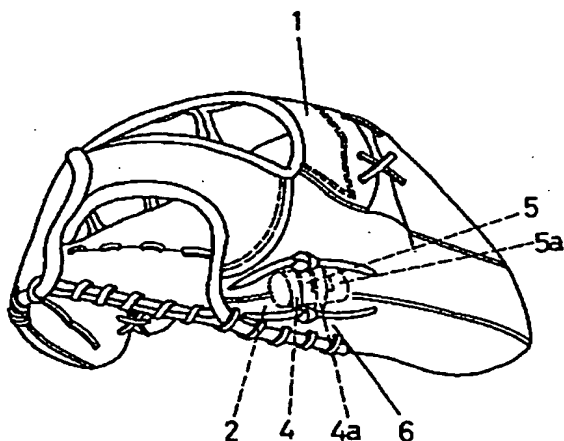
求項1記載のグラブ及びミットにおける親指保定装置。

図面の簡単な説明

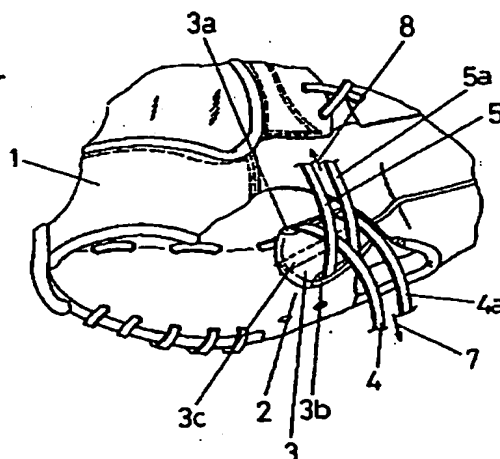
第1図はこの考案の装置を設置したグラブの斜視図、第2図は同じく一部破切し、紐をといた状態の拡大斜視図である。

1……グラブ、2……親指挿入部、3……親指当接片、4、4a、5、5a……紐、6……外革。

第1図



第2図



公開実用平成 3-96870

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平3-96870

⑬ Int. Cl.<sup>3</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成3年(1991)10月3日

A 63 B 71/14

F

7017-2C

審査請求 有 請求項の数 3 (全 頁)

⑮ 考案の名称 グラブ及びミットにおける親指保定装置

⑯ 実 願 平2-4398

⑰ 出 願 平2(1990)1月22日

⑱ 考 案 者 関 田 良 介 神奈川県大和市下鶴間3846番地 三恵運動用品株式会社内  
⑲ 出 願 人 三恵運動用品株式会社 大阪府大阪市浪速区元町3丁目13番4号  
⑳ 代 理 人 弁理士 鈴木 正次

## 明 細 書

### 1. 考案の名称

グラブ及びミットにおける親指保定装置

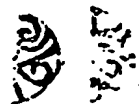
### 2. 実用新案登録請求の範囲

- 1 球受体の親指挿入部へ親指当接片の中央部を固定し、前記親指当接片の左右自由縁に夫々縛着用の紐の基部を固着し、前記夫々の紐は交叉する如く、外革を貫通縛着することを特徴としたグラブ及びミットにおける親指保定装置
- 2 縛着用の紐は夫々二本とした請求項1記載のグラブ及びミットにおける親指保定装置
- 3 親指当接片は、親指の挿入長さとはほぼ等しくし、少くとも親指の当接側を包む巾とした請求項1記載のグラブ及びミットにおける親指保定装置

### 3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

この考案は、親指を正しい位置に保定することを目的としたグラブ及びミットにおける親指保定装置に関する。



(従来 of 技術)

従来、知られているグラブ及びミットには、親指当接片があるけれども、その自由縁の側に縛着用の紐を連結しているにすぎない。

(考案により解決すべき課題)

前記従来のグラブ及びミットにおいては、親指当接片の側自由縁に縛着用の紐を連結しているので、この紐を引張ったり、緩めたりした場合であっても、親指の側を動かすにすぎず、親指の位置の調節が不十分となるのみならず、強制的に親指を包み込むことはできない問題点があった。

(課題を解決する為の手段)

然るにこの考案は、親指当接片の中央部を固定して、左右縁を自由縁とし、この自由縁に縛着用の紐の基部を保定することにより、前記従来の問題点を解決したのである。

即ちこの考案は、球受体の親指挿入部へ親指当接片の中央部を固定し、前記親指当接片の左右自由縁に夫々縛着用の紐の基部を固着し、前記夫々の紐は交叉する如く、外革を貫通縛着することを



特徴としたグラブ及びミットにおける親指保定装置である。また、縛着用の紐は夫々二本としたものである。次に、親指当接片は、親指の挿入長さとはほぼ等しくし、少くとも親指の当接側を包む巾としたものである。

(作 用)

この考案は、親指当接片の左右自由縁に夫々縛着用の紐の基部を固着し、前記縛着用の紐は交叉する如く外革を貫通縛着したので、親指の位置を右又は左に調節し得ると共に、緩く包み込むことができる。

(実施例)

次に、この考案の実施例を図面に基づいて説明する。

グラブ 1 (球受体) の親指挿入部 2 へ親指当接片 3 の中央部を縫着し、前記親指当接片 3 の左右自由縁 3 a、3 b に所定間隔を保って親指縛着用の紐 4、4 a、5、5 a の基部を固着し、前記紐 4、4 a、5、5 a は交叉するように外革 6 を貫通させ、夫々縛着したものである。図中 3 c は縫

着部を示す。

この考案は、前記構造であるから、紐 4、4 a を矢示 7 の方向へ引張れば、親指当接片 3 の自由縁 3 a も同一方向へ引張られて親指の左側面に当接し、紐 5、5 a を矢示 8 の方向へ引張れば、親指当接片 3 は同方向に引張られ、親指の右側面に当接する。従って、前記紐 4、4 a、5、5 a によって親指の位置を調節すると共に、親指当接片により親指を緊密に包み込むことができる。

このようにすれば、親指が正しい位置にしっかり保持され、捕球が確実になり易い。

(考案の効果)

即ちこの考案によれば、球受体に固定した親指当接片の左右自由縁に夫々縛着用の紐の基部を固着し、紐の先端部を交叉させて外革に貫通したので、紐を引張ることによって親指の位置を自由に調節すると共に、親指を当接片で包み込み、これを堅固に保定する効果がある。

親指が正しい位置に保定されることにより捕球動作が確実にできる効果がある。





4. 図面の簡単な説明

第1図はこの考案の装置を設置したグラブの斜視図、第2図は同じく一部破切し、紐をといた状態の拡大斜視図である。

- 1…グラブ            2…親指挿入部  
3…親指当接片    4、4a、5、5a…紐  
6…外革

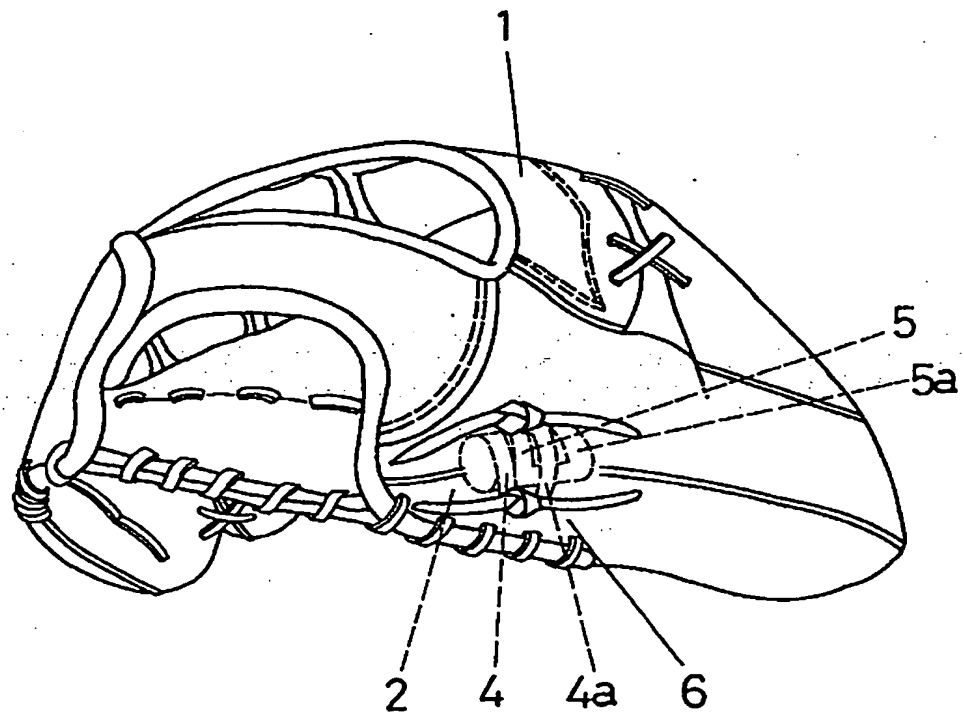
実用新案登録出願人

三恵運動用品株式会社

代 理 人

鈴 木    正 次

第 1 図

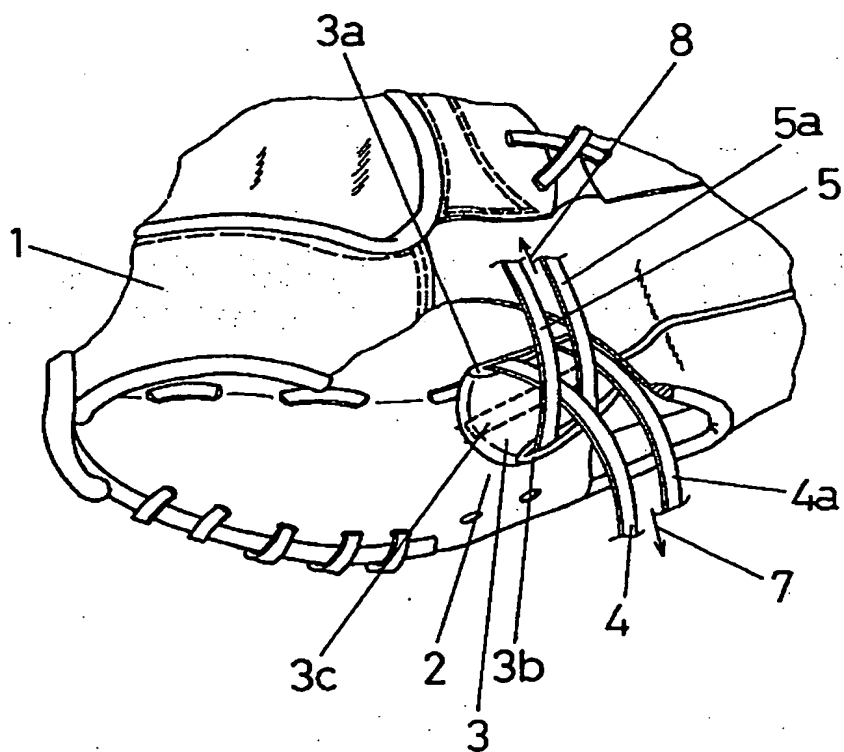


1055

実開3- 96870

代理人 鈴木正次

第 2 図



1056

実開3- 96870

代理人 鈴木 正 次